

# 社会基盤整備、農業振興策及び 観光・産業振興策に関する提言書

令和6年3月

平泉町議会 産業建設常任委員会

## 社会基盤整備、農業振興策及び観光・産業振興策に関する提言

### 1. はじめに

政府の地震調査委員会は、宮城県沖を震源とするマグニチュード 7 クラスの大地震について、30年以内に発生する確率を 90%に引き上げました。また、昨年 7 月からの 3 ヶ月間で 30℃以上は46日(一関)に及び、「猛暑日」は、一昨年までの過去4年平均の実に2.6倍と、「史上最も暑い夏」となりました。

地球温暖化による異常気象は、洪水、暴風雨、干ばつなど、地球規模に広がっています。町内でも昨年8月には、局地的な豪雨による大きな災害が発生し、「酷暑」は農作物にも被害を及ぼしました。

新型コロナウイルス感染症から「日常をとりもどしつつ」あるなか、物価高騰など町民の暮らしをとりまく状況は楽観できません。少子高齢化による人口減少は労働力不足が深刻となり、大量生産、大量消費と大量廃棄から抜け出す、循環型社会への変革が求められる時期となっています。

こうした背景を踏まえ、住民にとって安心、安全で持続可能な社会づくりに取り組むために、住民要望等に対する継続的な改善策と対応策を方向付けることを目的として提言いたします。

### 2. 本町を取り巻く状況と課題

本委員会は①社会基盤整備について、②農業振興策について、③観光・産業振興策について調査してきました。

社会基盤整備については、水道事業について、人口減少による有収水量の減少、設備の老朽化、料金格差などの課題があり、広域化を進める自治体の調査を行い当町の水道事業の在り方について模索しました。

また、「住環境の向上について」をテーマに初めて取り組んだ町民とのワークショップから、景観条例の見直しの必要性、リフォーム助成の要望、空き家の活用について等、様々な課題が出されました。

農業振興策では、遊休農地や荒廃農地への対応と後継者支援が必要であり、また、鳥獣被害対策は、「荒廃農地」と密接にかかわり、新たな状況を踏まえた対策が求められています。

観光・産業振興策については、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行後、観光需要が回復傾向にあり、中尊寺金色堂建立 900 年の今年は記念事業が続き、今後さらなる受け入れの整備が急がれます。しかし、自粛を余儀なくされた4年間の商工事業者の痛手は大きく、その支援策も必要となっています。

### 3. 調査及び検討の経過

#### (1) 所管事務調査

年月日	会議
令和4年4月28日	常任委員会、所管事務調査 ・(1)社会基盤整備について、(2)農業振興策について、(3)観光・産業振興策について を調査し、提言へつなげることを確認。 ・調査事項の発議(案)協議
令和4年6月14日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議
令和4年9月12日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議 ・研修視察先選定、協議
令和4年10月18日 ～10月19日	研修視察 大槌町、釜石市
令和4年12月13日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議
令和5年3月10日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和5年5月15日	常任委員会 ・住環境の向上について協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和5年6月13日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議 ・研修視察先選定、協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和5年9月14日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、観光・産業振興策について協議 ・研修視察について協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議

令和5年10月4日	常任委員会、所管事務調査 ・水道事業の現況について協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和5年10月23日 ～10月25日	研修視察 長野県長野市、群馬県太田市、埼玉県川越市
令和5年11月17日	常任委員会 ・町民との懇談会(ワークショップ)について協議
令和5年11月24日	常任委員会 ・住環境の向上について協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)
令和5年12月12日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、 観光・産業振興策について協議 ・研修視察の振り返り協議 ・町民との懇談会(ワークショップ)の振り返り協議
令和6年1月16日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、 観光・産業振興策について協議 ・提言(案)の検討
令和6年2月15日	常任委員会 ・調査報告(案)、提言(案)の検討
令和6年3月12日	常任委員会、所管事務調査 ・社会基盤整備について、農業振興策について、 観光・産業振興策について協議 ・調査報告(案)、提言(案)の検討

## (2)視察研修

令和4年

【期日】令和4年10月18日～19日

【場所】大槌町

【内容】「(株)ソーシャル・ネイチャー・ワークス」及び「MOMIJI 株式会社」の大槌町における鳥獣被害対策と地域振興の取り組みについて  
「一般社団法人おらが大槌夢広場」大槌復興ツーリズム事業  
東日本大震災の被害状況と復興の取り組みについて

【場所】釜石市

【内容】「シープラザ釜石」観光物産施設の視察  
「橋野鉄鉱山インフォメーションセンター」の視察  
世界遺産の連携と商業振興について

【所見】 大槌町の取り組みは「鳥獣被害対策」という狭い発想ではなく、産業、観光などの振興や、移住定住対策など多方面に、若者の力を活かす場になっています。

当町にとって条件の違いはありますが、参考となる事例が多く、様々な課題をチャンスに変えて挑戦していくために、課題解決のさらなる研究が必要であり不断の努力が必要と考えます。

「橋野鉄鉱山インフォメーションセンター」および高炉跡については、最盛期には日本最大の製鉄所であった橋野鉄鉱山は、平泉の文化遺産と同様の岩手県の3つの世界遺産の一つです。今後も先人の偉業を大切に遺し守り伝えていく責務があると考えます。



令和5年

【期日】令和5年10月23日～25日

【場所】長野県長野市・群馬県太田市・埼玉県川越市

【内容】①長野県長野市、群馬県太田市：水道事業の広域化について

長野市の進めている「水道事業の広域化」に向けた取り組みの現状、すでに「水道事業広域化」を実施している太田市の現状と課題について視察しました。

【所見】 長野市の広域化に向けた構想と太田市の広域化実施後の事業評価と課題は

- 1 複数の自治体の水道事務作業手順が統一できていない
- 2 簡易水道を広域事業に包含せず所管自治体管理としている
- 3 地域によっては広域化で水道料金が上がっている

となっており、当町の状況を考えた場合、今後の水道料金や、水の安全性などに課題が残り、広域化については今後も慎重な調査・研究が必要と感じたところです。

【内容】②長野県長野市農業公社：「農福連携」事業について

農業現場を取り巻く課題に対して先駆的な取り組みを実践している「農福連携」事業を視察しました。

【所見】 本町の現状に鑑みた場合、長野市の農業公社のような取り組みは一朝一夕にできるものではありませんが、中山間地農業を支えていく上からも

参考、検討に値すべき取り組みです。

【内容】③埼玉県川越市：川越のまちづくりについて

「小江戸」的景観の蔵造りで有名な街並みを歩き、どのようなまちづくりが行われているか視察しました。

【所見】 小範囲の区域に「小江戸」と呼ばれる旧家や蔵が立ち並び、地場の特産物を加工した商品、昔ながらの菓子工房などが店舗として活用されています。

当町の中尊寺通りは観光客に散策してもらおう魅力に乏しく、川越に見習うべきところが沢山あると感じました。



(3)町民とのワークショップ

【開催期日】令和5年11月24日(金)

【開催場所】平泉役場 201 会議室

【参加者】 民生委員 3 名、建築組合員 3 名、地域婦人団体協議会 3 名 一般公募 1 名  
高橋拓生議長、産業建設常任委員 5 名

【テーマ】「住環境の向上について」

- ・世界遺産に相応しい街並みとは
- ・暮らしやすい住まいの環境とは
- ・空き家の活かし方

【出された意見】

- ① 世界文化遺産平泉の価値を  
伝統的建築技術の価値について町民の理解が望まれる。
- ② 景観条例の見直しが必要ではないか

規制が厳しく家を建てる際の高いハードルになっている。  
条例についての明確な説明が足りない。

- ③ 町民にも観光客にも優しい町に  
公園や子どもの居場所がない。買い物難民への対策を。
- ④ 空き家が増加している  
手入れのされていない空き家が増えている。「空き家バンク」の要件見直しと、専門家による「サポート窓口」が必要である。
- ⑤ 地元の大工さんをもっと利用できるよう、リフォーム補助制度を設けるべきである。それが地域循環に繋がる。



#### 【所見】

世界文化遺産登録から13年が経過し、一時は1万人に近い人口があった当町は予測を超える人口減少と少子高齢化に直面しています。ワークショップの中では、少ない人口ながらも住みやすい住環境を維持するために必要なことについて話し合いました。

買い物のできる店の減少、空き家の増加などはどの町にも共通している課題ですが、特に多く出された課題は景観条例による家を建てる際の高いハードルについてでした。

当町は住宅建設や増改築の制限が多く、移住、定住を進める上の障害になっており、それがひいては人口減少の要因にもなっています。

今回町民とのワークショップにより、改めて顕著になった課題である景観計画、景観条例について提言することとしました。

以上の理由により、本提言書とは別冊に「景観計画及び付随する条例の改定に向けた提言」として作成しましたので申し添えます。

#### (4) 平泉町議会議員に対する提言(案)の説明

令和6年2月27日に、提言(案)を説明しました。

#### 4. 提言

##### ①社会基盤整備について

災害時における避難路の確保や緊急車両の通行にとっても道路整備は重要である。町道認定されていない生活道路や、未舗装の生活道路の整備とともに、緊急車両が入れない道路の改善にも引き続き努められたい。

水道事業の広域化については、水道料値上げや安全性の確保について課題も見られた。また、能登半島地震での水道の復旧状況をみると、広域化となれば復旧は一層遅れることが推測されることから、慎重な議論が必要と考える。

町内での豪雨被害や能登半島地震を踏まえ、維持管理が町に属する「治山ダム」の掌握と対応に引き続き努められたい。

初めて実施した「住環境の向上」をテーマとした町民とのワークショップでは、平成17年に施行されている「景観条例」について、町民から平泉町で暮らすうえで、様々な弊害となっているとの意見が出された。

そこで当委員会として「景観計画」と「景観条例」については、時間の経過とともに運用上の課題、社会情勢の変化を踏まえ見直す時期に来ているのではないかと考え、別冊の提言とすることとした。

##### ②農業振興策について

最大の課題は担い手・後継者不足である。農村の疲弊は食料の生産基盤の弱体化となり、生産力の低下で2040年にコメは156万トンの供給不足になると推計されている。

「食料・農業・農村基本法」の見直しで「自給率の向上」が「放棄」される懸念があり、小規模農家も重要な「食料生産者」との立場で支援を強めることが必要である。

町内ではここ数年、新規の就農者が園芸野菜に意欲を持って取り組んでいる。繁忙期の人手不足なども課題となっているが、「農福連携」の探求も含め若手就農者が希望をもって農業に取り組める支援を強められたい。

昨年はクマの目撃が町内全域で報告された。また、長島地域ではサルの出没やイノシシの被害が拡大しており、状況の変化を踏まえた対策を講じられたい。

##### ③観光・産業振興策について

平泉町は令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響により激減した交流人口が令和5年5月の5類移行を契機に、国内外の観光事業が回復傾向を示し、令和5年度は当町も観光客が増加しにぎわいが戻りつつあると感じた年だった。

従来通りの開催となった各種イベントや事業も多く、特に令和6年は金色堂建立900年事業として様々な事業が計画され、開催を機に観光事業の飛躍が期待されている。

一方、産業振興については4年間に渡った新型コロナウイルス感染症の影響から国、県からの財政支援を受けている事業者も多く、その返済の時期をむかえ苦慮している事業者も見受けられる。また、高齢化による後継者不足も相まってこの間、廃業に追い込まれる事業者も見受けられた。

そのなか町は誘致企業との連携によるプログラミング講座などの人材育成を図り、デジタル技術の活用による新たな仕事への期待も感じられた。

当町においては中尊寺通りの整備完了を受け、新たな店舗開業への助成支援などにより、歩いて楽しい中尊寺通り及び毛越寺通りによる誘客で地元商店の活性化を目指すべきと考える。

避けられない人口減少と高齢化の中、東稲山麓日本農業遺産と藤原氏の平和理念、浄土思想を優位性として、平泉の世界遺産の新たな価値による観光施策として令和5年3月に策定した「観光振興計画」の具現化を図るよう提言する。

合わせて、観光客が戻りつつある中でも物価高騰により利益の減少する現状を踏まえ、コロナ後の観光を支える商工事業者への息の長い支援も継続するよう求める。

平泉町議会 産業建設常任委員会

委員長； 升沢博子

副委員長； 三枚山光裕

委員； 千葉勝男、高橋伸二、大友仁子